

第四の村



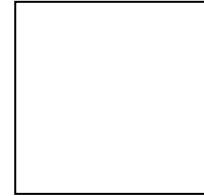
↑昨日とは打って変わった夏空。右手に村落の墓地を見て、農道を村に進む。
スロープを上げればベトナム国旗



↑この集落には訪れるに相当なところ鳴く、少し移動して見る。



←↑川を前にして、繁みの木陰におばさんたちが集う村に出ました。水牛が放牧されている。紅い看板は何だろう。村の名称だろうか？



↑動画

おばさんたちに織物を見せてと言うと、手に手に持ち寄ってくれました。自分の製作したものを自慢したり批評し合ったりしているようにも見えます。向かいの農家の2階からも声がかかります。その前を家路につく水牛が通ります。最近では機織りをしないらしく、織っていたころを懐かしんでいるかとも思えます。数枚を購入しました。



↑手に手に織物を。美しいデザイン。汗ふき、手ぬぐいに最適。その前を水牛が畜者に帰ります。小型で性質温順。人だかりにおびえた風情。



←こんな風景のところ。集っていた女性たちは放牧の水牛を見張るためです。道路右に整備された水路が流れます。

水路に沿ってさらにバイクは進みます。→





↑ 左手に集落墓地を見ながら水路堤を進む。穴の開いた暗渠をバイクが進みます。



↑ 暗渠を渡り右の水路堤を行く。辻に野市が立っています。夕食の食材が売られます。香草、野菜、サワガニが売られます。サワガニは日本の物と同じ。から揚げで珍味。ドライバーが目指す村への道順を聞きます。まだまだ、先のようなです。

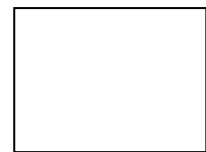


↑ 左の緑一杯の農地でなにやら収穫作業中を見ながら進むと、またしても辻に野市。楽しそう。淡水魚や野菜。上のバケツはウナギ。先を左に折れると目指す村のようだ。

↑ 動画 暗渠を渡ります



← 左に折れて更にバイクは進む。村は間近い。



↑ 動画
集落道は舗装に変わります。バイクは走ります



← 村に到着。若者がいます。

↓この農家を訪問しました。



←高床式の新築の大きな居宅です。二階へは、立派な階段で上がります。ゲートを入ると左手にワラの堆肥に数頭の水牛が放し飼い。夜は畜舎に入ります。オスがいます。自然交配です。2年に一度平均で子牛が生産されるとのこと。空胎期間がかなりあると言った生産。



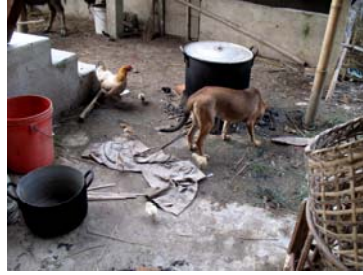
←床下（一階）が織物作業場。織機、製糸関係の器具や小農具が並んでいる。 →



↑牛舎



↑豚は舎飼いです。分娩していました。ヨークシャー風の優れた豚。この手の豚を見るのは珍しい。この種類はと聞くと、知らないとのこと。頓着しない。



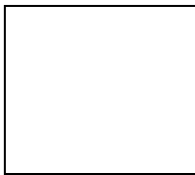
前日雲間から刺す夕陽に映えていた山の麓の村です。山もこの村の物かと聞くと、そうだとのこと。かなり豊かな村とお見受けしました。大家族の住まい方は同じです。

↑ 鳩舎。食用鳩。居宅の屋根の上に。

↑ ニワトリもいます。



↑ 別れを告げ、新築中の居宅を繁みの中に見ながら、まちへ帰ります。夕陽は稜線に沈む頃。



←動画

林に囲まれた細い集落道を抜け、スロープを下ると、広大な穀倉地帯に入ります。やがて、まちに続くメインストリートと交差します。右折すると5月7日通りです。次第に家屋や店舗が密集し、人民軍墓地の前に出ます。しばらく、バイクのドライブを紹介します。



↑ バトナムとも今夜でお別れ。最も大きな誰でも知っているレストランで夕食。リエントゥオイ (Lien tuoi) で夕食。春巻きとビーフ料理を注文。このラベルが本物のタイガービア。時間が早く、客は我々のみ。後ほど、テイエンビエンフー大学の教授連が団体で来店。中国系の店か。店の成功を誇示するように一族の写真が飾られている。よくあることだ。



←このホテル最後の夜である。フロントの掲示を紹介しておこう。
 ①正式にチェックインするときは、パスポートや身分証明書を提出すること。
 ②受付の許可なく、部屋を変えたり、他の人を部屋に引き込まない
 などなど当然のことが8項目記されている他に次の項目がある。
 Sex をするな、ギャンブルをするな、カードをするな、その他、社会主義者に反するような一切のことはしてはならない